

## 積算資料

### 間接工事費(諸経費)

#### 【一ツ屋橋】

諸経費工種は「鋼橋架設工事」を適用。理由:「鋼橋塗装工」が主たる工種となるため。  
施工地域は「一般交通影響有り(2)」を適用。理由:交通量5,000台/日未満で交通規制を行うため。

### 補修数量及び歩掛適用について

#### 断面修復工

- ・床版下面の補修において、鉄筋露出部のはつり厚さが5cmと想定されていましたが、当該部分のかぶり厚さは薄く、健全部まではつり取る計画となっていたため、はつり厚さを2cmとして修正しました。施工時において、これ以上のはつりの必要が生じた場合は、変更にて対応をお願いします。

#### 含浸材塗布工

- ・含浸材塗布工について、設計では中性化対策及び不動態被膜再生を目的としてプロコンガードシステム工法が採用されていましたが、本橋床版下面等に発生している鉄筋露出は被り不足に伴うものと考えられ、採用工法は過大な設計であると考えます。当該損傷の対策工法としては、断面修復を行った後、劣化因子の侵入防止対策としてシラン系含浸材の塗布を行うのが良いと考えます。したがって、プロコンガードシステム工法(101m<sup>2</sup>:直工470,000円)から、より経済的なシラン系含浸材塗布工(101m<sup>2</sup>:直工31,6000円)に変更して積算を行っています。

#### 塗替塗装工

- ・支承の防錆対策としては、桁構造と同等のRc-Ⅲ塗装系にて塗り替えを計画しています。  
(施工時において、必要があれば錆転換型塗料(サビハリヤー等)への変更対応をお願いします。)

#### 地覆端止水工

- ・地覆部のシーリング施工費は伸縮装置工に含まれています。材料費については、必要量を計上しています。(土木コスト情報7月P192)
- ・1号、2号地覆止水工については、設計上の構造が止水機能を有する構造となっていなかったため、埋設型枠+目地シール工を計上しました。また、地覆止水工の仕上がり高さについては、現地協議事項としました。(図面に記載)

#### 路盤すき取り

- ・橋梁前後のレベリングのために、路盤を1cmすき取る計画となっていました。施工上の管理が困難と考えられるのでこれを実施せず、打替えの舗装厚で調整するものとなりました。

#### 舗装工

- ・舗装工及び路盤工の橋軸方向の施工幅が狭く、当橋の幅員から選定される大型機械での施工は困難であると考えられることから、小幅規模又は歩道規格を準用し、施工機械に合わせた積算を行っています。

#### 足場工

- ・塗膜剥離工の実施に際して、吊足場に剥離剤用養生設備工を追加計上しました。
- ・塗り替え塗装に伴う、足場盛り替え工を追加計上しました。
- ・吊足場の設置に際して、橋梁路面からの足場材の搬入・搬出を想定しています。(補正率1.1)(交通誘導員の配置を見込む)